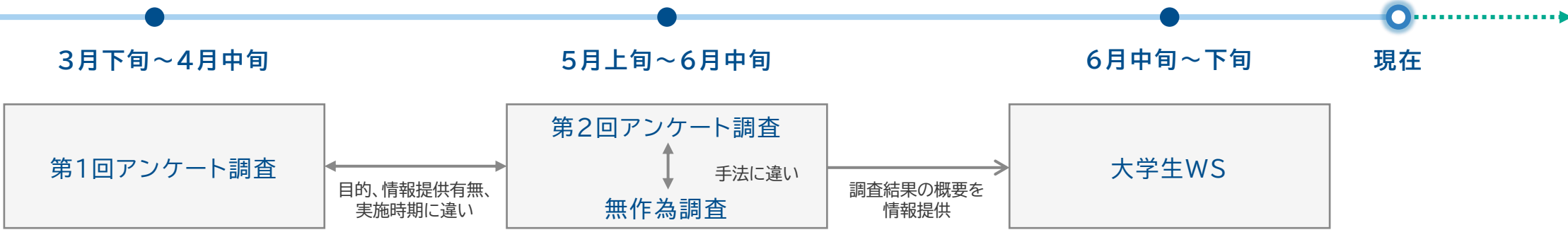


持続可能な雪対策の在り方検討における市民参加の状況

意見収集ループの実践により多様な市民の意見を把握

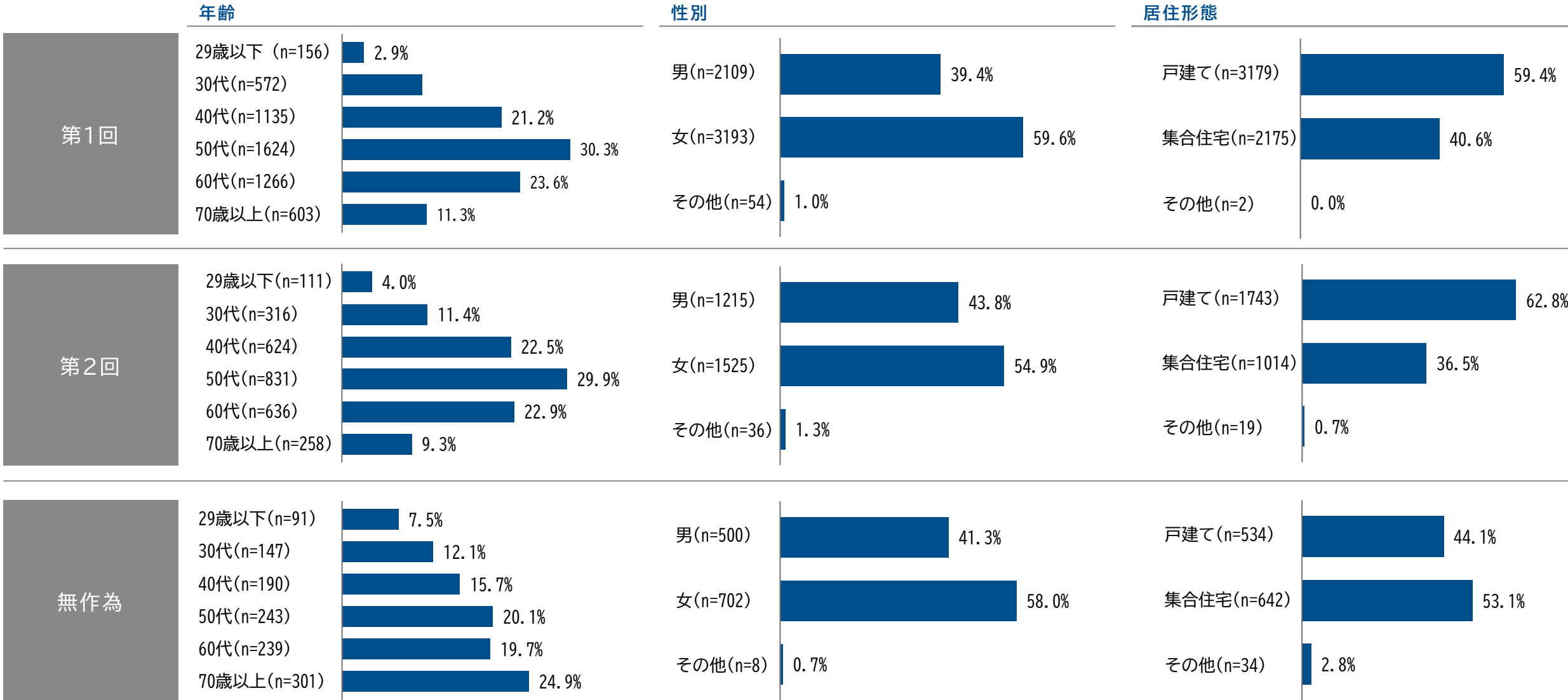


| 調査名等   | 目的                                                                                | 方法                                            | N数    | 備考                                                                                 |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|-------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回調査※ | 簡潔なテキストで雪対策の課題を伝えた上で、基本的な意見や傾向を把握<br>期間：2025年3月29日～4月12日 ※HPで調査結果をフィードバック         | ※ オンライン調査<br>※ LINE通知                         | 5,356 |                                                                                    |
| 第2回調査※ | 【情報提供あり】広報さっぽろで情報提供した上で意見や傾向を把握<br>期間：2025年5月1日～6月13日 ※広報さっぽろ8月号で調査結果をフィードバック     | ※ オンライン調査＋調査票（区等で配布）<br>※ 広報さっぽろにQRを掲載＋LINE通知 | 2,776 | ※ 第1回調査に回答した：20.9%<br>回答せず：16.7%<br>知らない：62.4%<br>※ 回答者の約9割がLINEがきっかけ<br>※ 紙の回答は2件 |
| 無作為調査※ | 【情報提供あり】広報さっぽろと同じ情報を提供した上で意見や傾向を把握<br>期間：2025年5月21日～6月13日 ※HPで調査結果をフィードバック予定      | ※ オンライン調査＋調査票<br>※ 無作為抽出した3千人の市民に調査票を郵送       | 1,215 | ※ 回答率：40.5%<br>※ 紙：web=8:2                                                         |
| 大学生WS  | 【情報提供あり】北海商科大学、北海道大学の学生を対象に議論した意見を収集<br>期間：2025年6月13日～6月25日 ※広報さっぽろ8月号で結果をフィードバック | ※ ワークショップ（2校で計3日間実施）                          | —     |                                                                                    |

※ 第2回調査と無作為調査は同じ設問。第1回調査は他の調査よりも設問数が少ない（3回に共通する主な設問：強化してほしい取組、担い手不足対策、冬の暮らしの困りごと、冬で生活する上での心構え）

市民アンケート調査：属性

LINE調査は40～60代中心。無作為調査は60代以上の比率と集合住宅率が高い



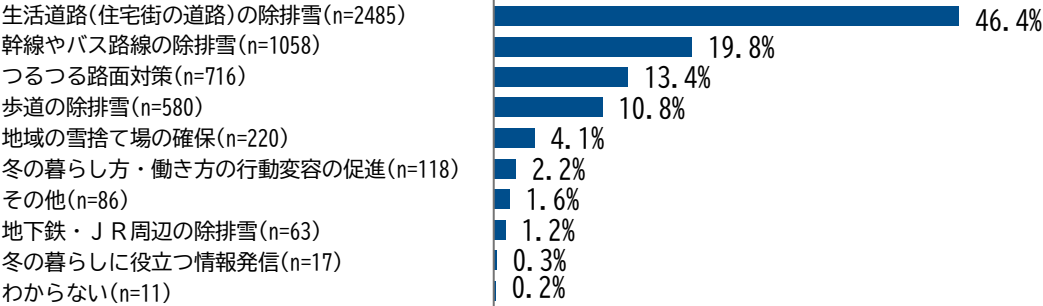
※ 属性に関するバランスの補足：第1回と第2回のグループ間のバランスチェックでは、統計的に年齢、性別、居住形態に差が検出されたが、Cohen’s dによる効果量が0.2未満と小さく、実質的な差は無視できると判断。Cohen’s dは2つのグループ間の差の大きさを示す効果量指標。p値が「統計的に意味のある差があるか」を示すのに対し、「その差がどの程度大きい」を表す。一般的に0.2以上で小さな効果、0.5以上で中程度の効果、0.8以上で大きな効果とされる

2025.8 市民参加の仕組みづくりのための検討会

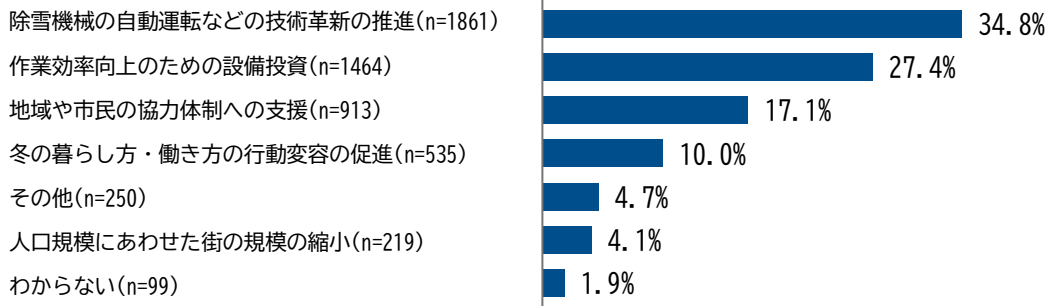
最優先は「生活道路の除排雪」の強化。担い手不足対策には「技術革新」や「設備投資」に期待

雪対策において強化してほしい取組(単一回答)

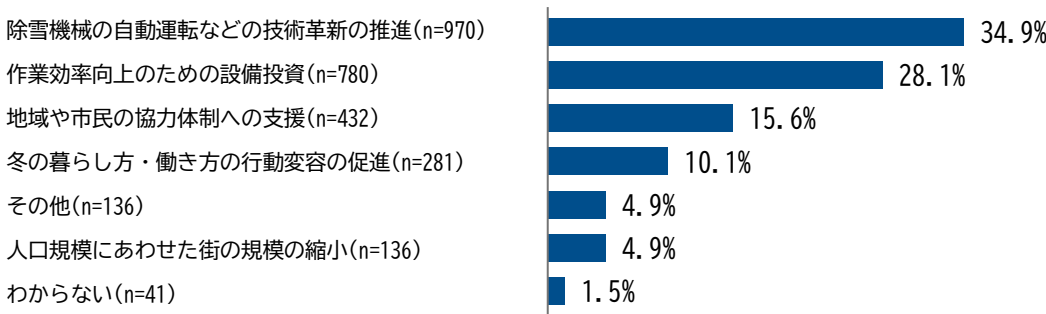
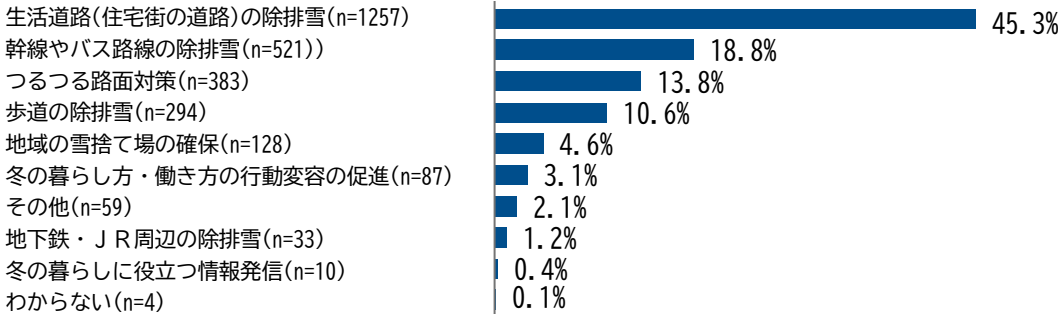
第1回



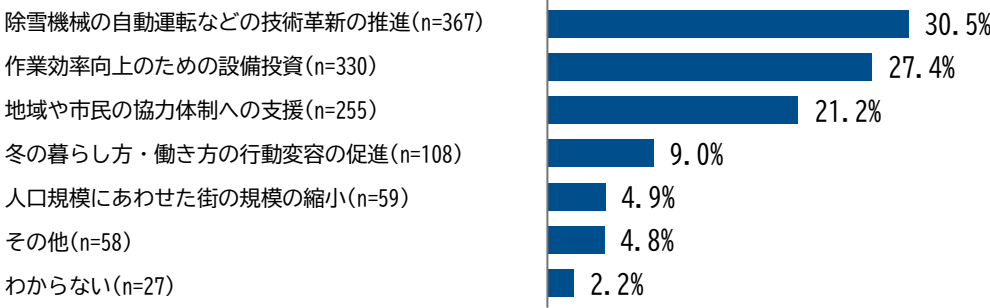
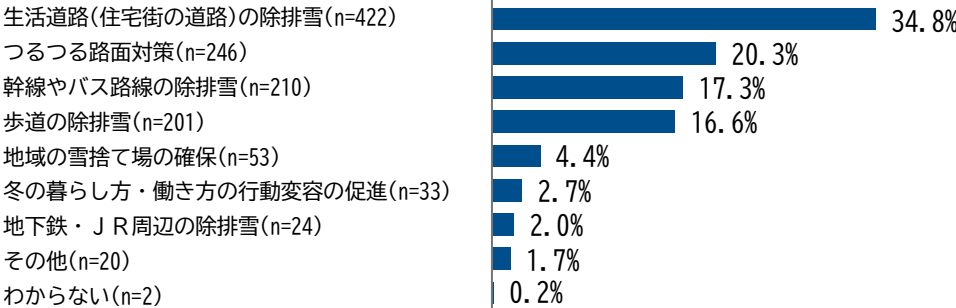
担い手不足対策(単一回答)



第2回

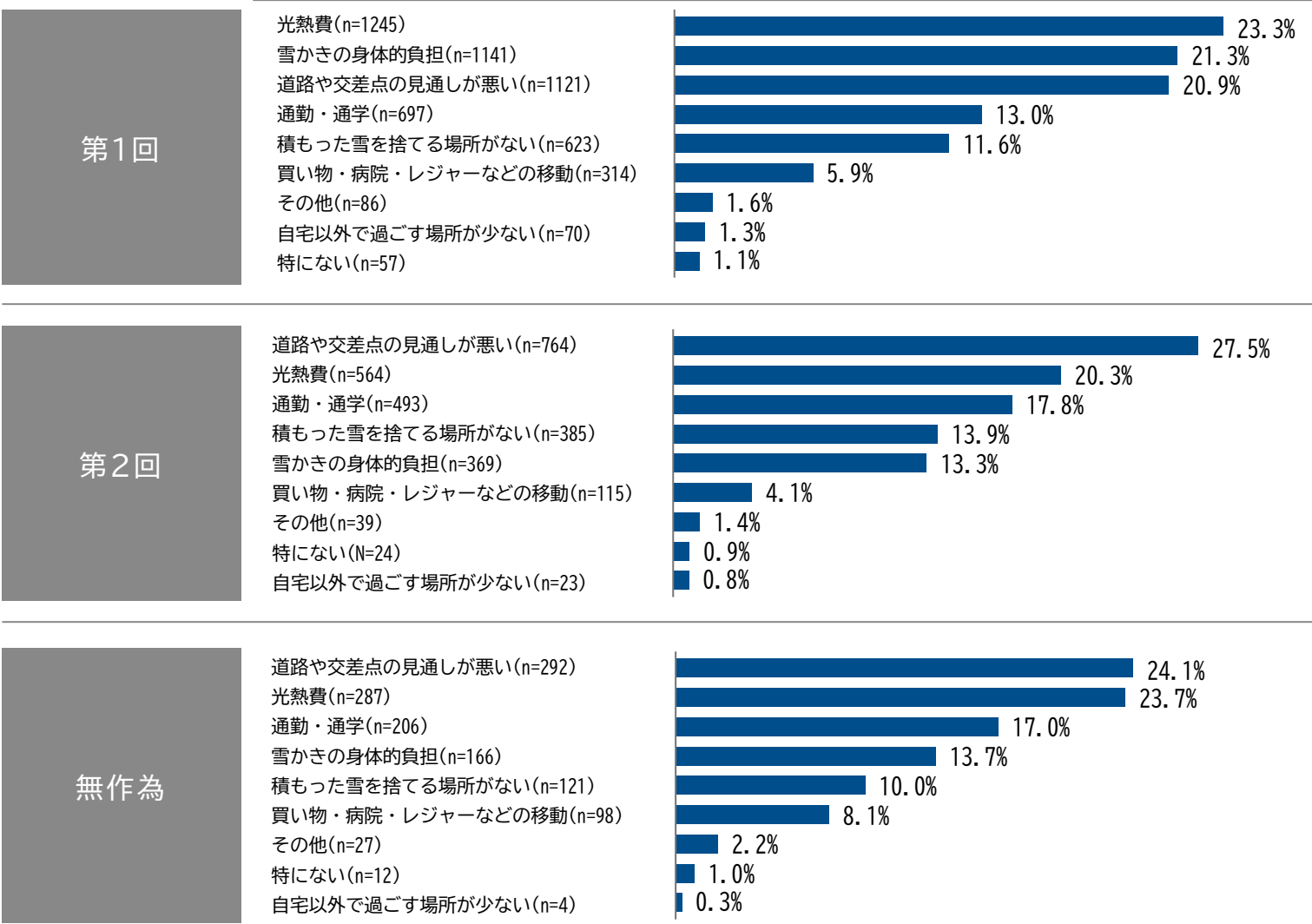


無作為



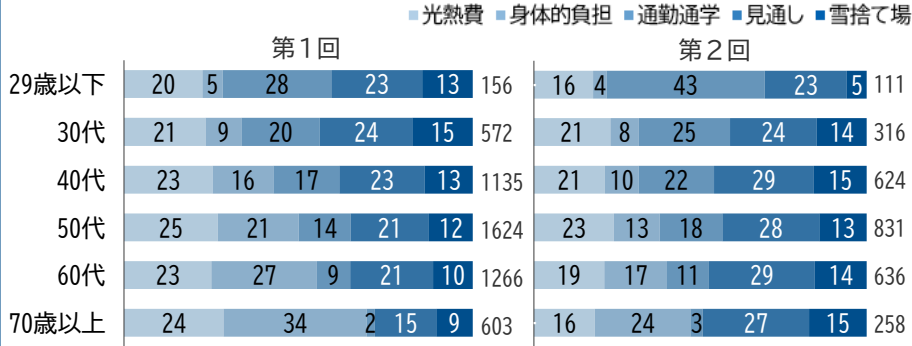
「道路や交差点の見通しの悪さ」や「光熱費」が課題。公共的な課題認識への変化も

冬の暮らしの困りごと（単一回答）



第1回と第2回の差の要因について

①年齢×困りごとの上位5項目の比較(%)



②第1回と第2回の構成比の差

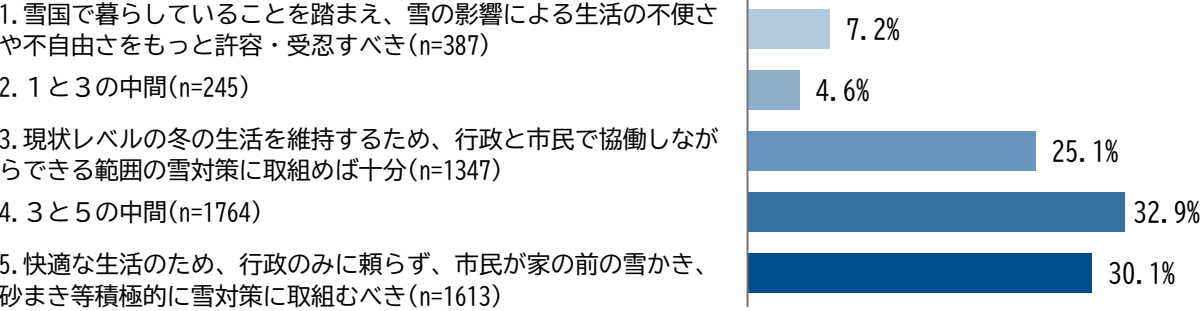
| 年代<br>居住形態 | 光熱費  | 雪かきの<br>身体的負担 | 通勤・通学 | 道路や交差点<br>の見通し | 積もった雪の<br>捨て場所 |
|------------|------|---------------|-------|----------------|----------------|
| 29歳以下      | -3.7 | -1.5          | 15.7  | -0.6           | -7.4           |
| 30代        | 0.4  | -1.2          | 5.4   | 0.4            | -1.5           |
| 40代        | -2.9 | -6.5          | 4.3   | 6.3            | 2.4            |
| 50代        | -1.8 | -8.3          | 4.2   | 7.0            | 2.0            |
| 60代        | -3.4 | -10.1         | 2.9   | 7.5            | 3.9            |
| 70歳以上      | -8.4 | -10.0         | 1.1   | 12.3           | 5.9            |
| 戸建て        | -1.3 | -11.7         | 7.1   | 5.7            | 0.9            |
| 集合住宅       | -4.8 | -3.8          | 5.7   | 3.9            | 3.7            |

- ※ 「雪かきの身体的負担」という個人の負担感に関する意見は、主に高齢者と戸建ての住民を中心に大きく減少
- ※ 一方で、「道路や交差点の見通しが悪い」といった、地域全体の安全性に関わる公共的な課題認識は、全世代・居住形態において増加
- ※ 情報提供により「雪かきの身体的負担」への意識に統計的に有意な変化が確認され（ $p<0.001$ ）、小さいながらも効果（Cohen's  $d = 0.207$ ）が認められた

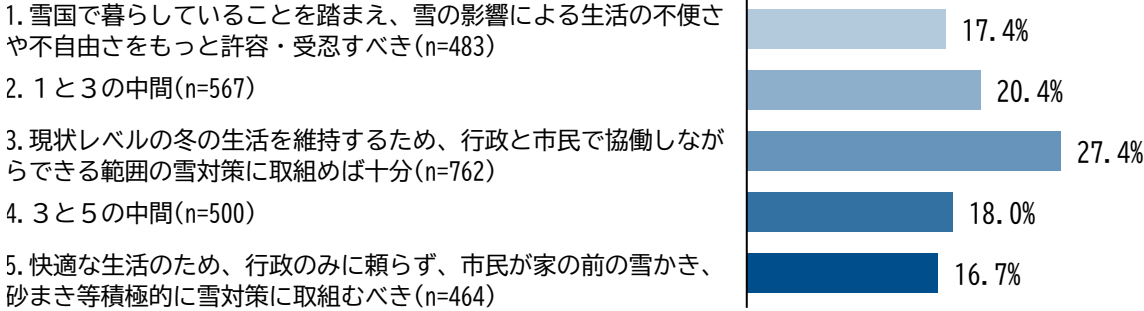
心構えの変化：「市民と行政の協働」や「雪の影響を許容する」意識へ

札幌の冬で生活するために市民が持つべき視点や心構え（単一回答）

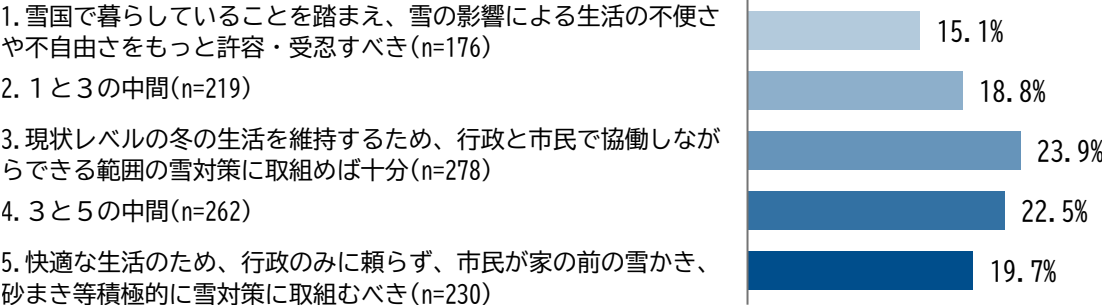
第1回



第2回

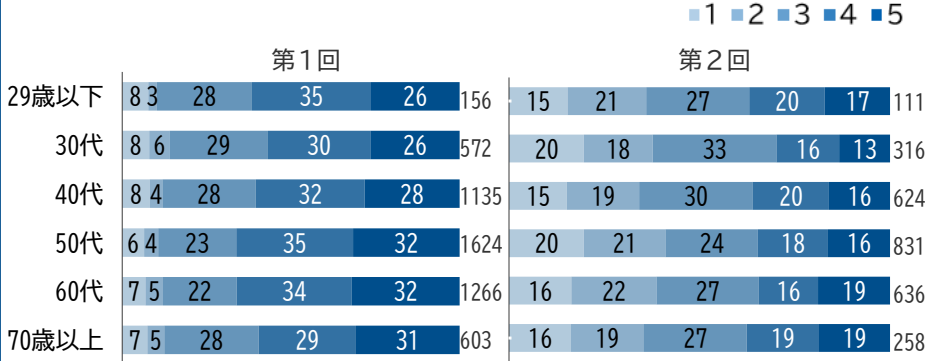


無作為



第1回と第2回の差の要因について

①年齢×心構えの結果(%)



②第1回と第2回の構成比の差

| 年代<br>居住形態 | 1    | 2    | 3    | 4     | 5     |
|------------|------|------|------|-------|-------|
| 29歳以下      | 7.6  | 18.2 | -1.2 | -15.4 | -9.2  |
| 30代        | 11.6 | 12.1 | 3.4  | -14.0 | -13.1 |
| 40代        | 7.1  | 15.1 | 2.1  | -12.2 | -12.1 |
| 50代        | 13.1 | 17.2 | 1.2  | -16.2 | -15.3 |
| 60代        | 9.5  | 17.1 | 5.1  | -18.6 | -13.0 |
| 70歳以上      | 8.8  | 14.0 | -0.9 | -9.9  | -12.1 |
| 戸建て        | 10.0 | 16.7 | 4.3  | -15.7 | -15.3 |
| 集合住宅       | 10.7 | 14.6 | -0.9 | -14.1 | -10.4 |

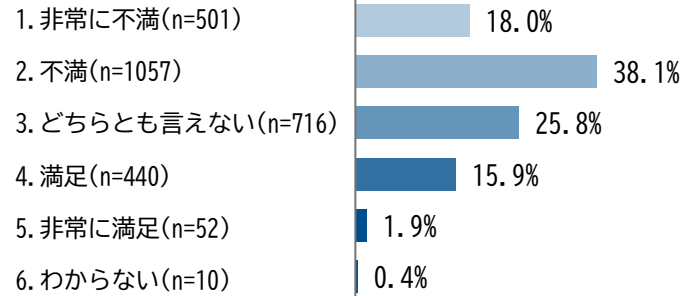
※ 「市民が積極的に雪対策に取り組むべき」という志向は、主に50代、60代の世代や戸建ての住民を中心に減少した一方で、「雪の影響による不便さをもっと許容・受忍すべき」という志向は、全世代・居住形態において増加

※ 情報提供により「心構え」に統計的に有意な変化が確認され（ $p < 0.001$ ）、中程度の効果（Cohen's  $d = 0.644$ ）が認められた

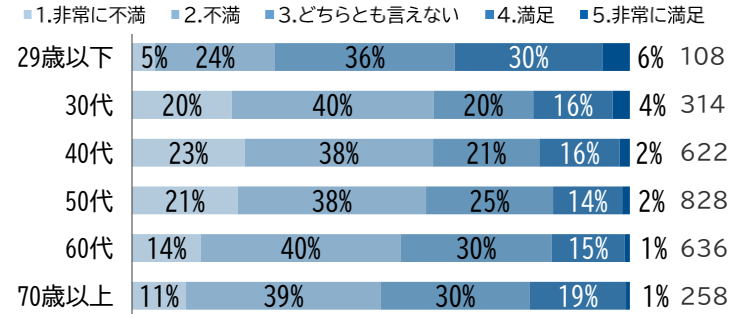
# 市民アンケート調査：除排雪の満足度、自由記載

## 除排雪に対する市民満足度は全体的に低い

除排雪の満足度（単一回答）



除排雪の満足度×年齢



### 自由記載欄における傾向の違い

自由記載に含まれている除雪に関する基本的なワードの件数と割合の比較

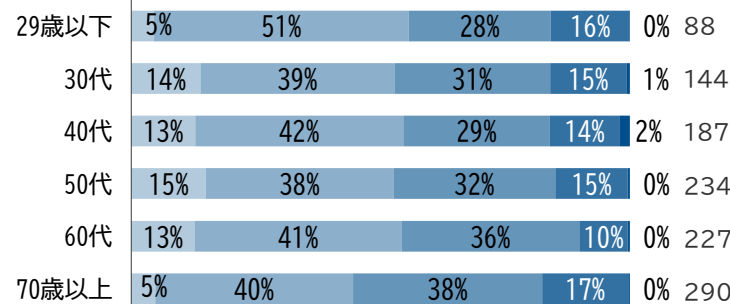
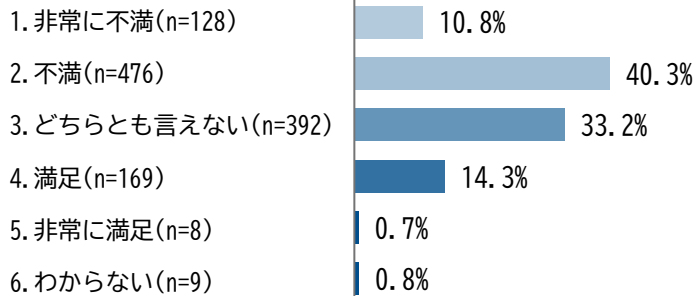
| ワード  | 第2回（1291件中） | 無作為（576件中）  |
|------|-------------|-------------|
| 除雪   | 706件（54.7%） | 279件（48.4%） |
| 道路   | 479件（37.1%） | 185件（32.1%） |
| 排雪   | 443件（34.3%） | 157件（27.3%） |
| 生活道路 | 162件（12.5%） | 46件（8.0%）   |
| 歩道   | 154件（11.9%） | 76件（13.2%）  |
| 負担   | 92件（7.1%）   | 26件（4.5%）   |
| 雪かき  | 89件（6.9%）   | 36件（6.3%）   |
| 融雪   | 82件（6.4%）   | 23件（4.0%）   |

※「除雪」「道路」「排雪」は、第2回調査でより多く見られ、「排雪が雑で家の前に雪が偏って置かれる」「除雪後の置き雪の処理が大変」という不満が目立った

※「歩道」は、無作為調査でやや多く、「ツルツルの歩道は高齢者や障がいのある方にとって困難」「歩道の道幅が狭く、車を持たない高齢者が安心して歩けない」といった声が寄せられた

※「雪かき」は、第2回調査では、不公平感を訴えるもののほかに、「地域で雪かき祭りを行って除雪を呼びかけ、自分の家は自分で除雪する」「雪かきスタンプラリー（雪かきをしてほしい人達の住んでいる場所の周辺にしるしをつけたマップを配り、できたらスタンプをおしてもらおう）」といったアイデアも含まれていた

### 第2回



### 第2回調査では「非常に不満」が多く顕在化

※ 両調査を比較すると満足（「非常に満足」「満足」の合計）の割合は両調査でほぼ同程度だった一方で、「非常に不満」は第2回で18.0%、無作為では10.8%と大きく差が見られた

※ 第2回では課題意識を持つ層がより多く参加した結果と考えられるが、無作為調査では「どちらとも言えない」の割合も高く、評価の保留や関心が低い層である可能性を示唆

### 年代で満足度の評価が分かれる

※ 除排雪の満足度については、30～50代を中心に不満が高い

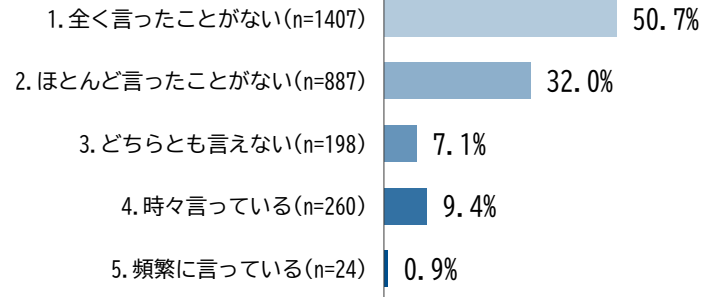
※ 70歳以上は不満度が比較的低い傾向

※ 29歳以下は両調査において評価が二極化しており、第2回調査では満足度が全世代で最も高いが、無作為調査では最も低い

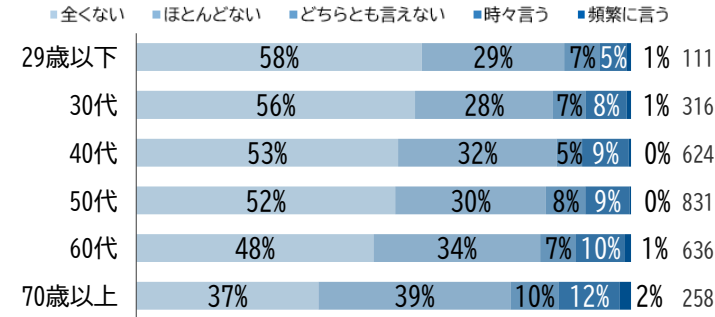
# 市民アンケート調査：市政に意見を言う頻度

## 回答者は高い割合で「普段市政に意見を言わない」と回答

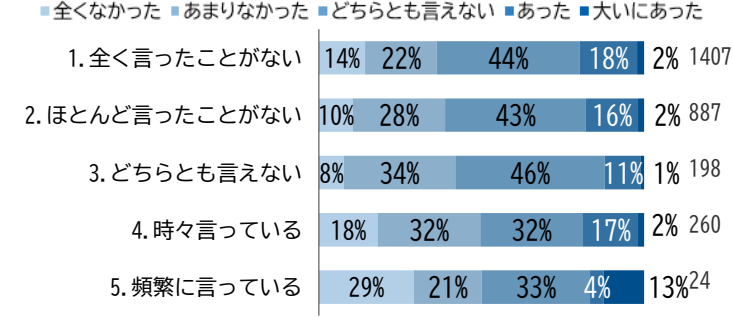
市政に意見を言うか(単一回答)



市政に意見を言うか×年齢

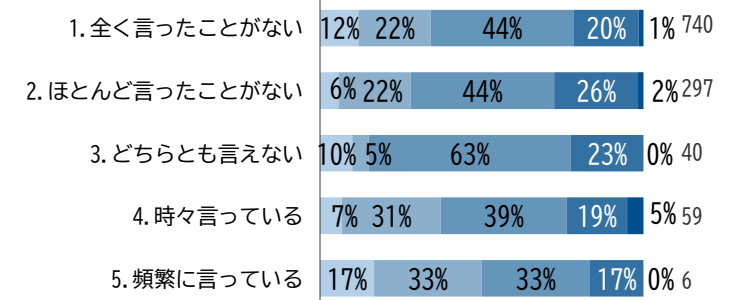
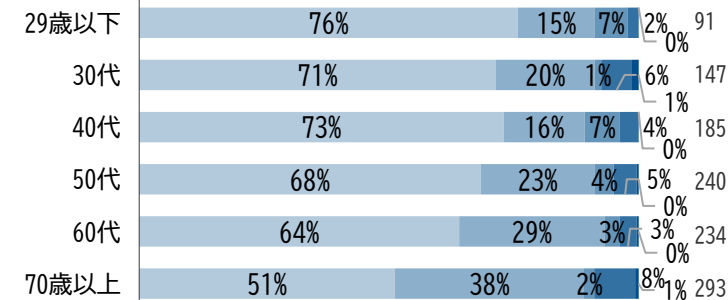
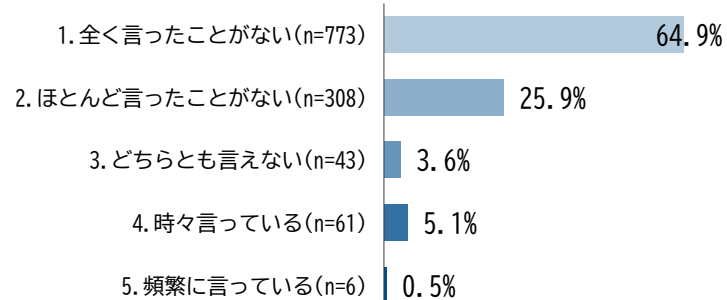


市政に意見を言うか×情報提供による意識変化



第2回

無作為



### 無作為調査はサイレント層の参加を促進しやすい

- ※ 第2回調査において、「言ったことがない(「全くない」「ほとんどない」の合計)が全体の82.7%、無作為調査では全体の90.8%
- ※ 第2回調査は、「言ったことがある(「頻繁に」、「時々」の合計)」の合計が無作為調査と比較すると4.7ポイント高い。一方、無作為調査は、「全く言ったことがない」が14.2ポイント高く、サイレントマジョリティの参加を促しやすい可能性がある

### 若年層ほど意見を言わない可能性

- ※ 年齢が上がるほど市政への意見表明の度合いが高まるという傾向は両調査に共通
- ※ 高齢層に対しては、継続的な対話の機会を提供することにより、安定した参加を促すことが重要である一方で、若年層に対しては、参加したくなる情報提供や機会の設計が必要と考えられる

### 意見表明度合いが高い層の変化の自覚は限定的

- ※ 情報提供による意識変化の自覚は、市政への意見表明度合いに関わらず一定程度見られる
- ※ 意見表明の度合いが高い層ほど、変化の自己認識は限定的
- ※ 正確な情報提供により、市政の方向性への理解や納得感を醸成しながら、サイレントマジョリティの参加の機会を創出することが重要

市民アンケート調査：調査に回答した理由

調査ごとに参加の動機が異なる

調査に回答した理由（2つまで選択）×年齢

| 第2回 | 年齢    | 雪対策に<br>日頃から関心 | 自分や家族の<br>生活に関わる | 雪対策の課題<br>を知って興味 | 時間に余裕 | 回答に手間が<br>かからない | 意見を伝える<br>機会がない | その他   |      |
|-----|-------|----------------|------------------|------------------|-------|-----------------|-----------------|-------|------|
|     | 29歳以下 | 18.4%          | 18.4%            | 10.4%            | 11.0% | 4.9%            | 19.0%           | 17.8% | 163  |
|     | 30代   | 32.7%          | 31.5%            | 6.3%             | 9.3%  | 3.4%            | 16.3%           | 0.6%  | 496  |
|     | 40代   | 38.2%          | 27.9%            | 6.8%             | 7.3%  | 2.8%            | 16.4%           | 0.7%  | 909  |
|     | 50代   | 38.9%          | 24.6%            | 9.0%             | 5.2%  | 3.2%            | 17.8%           | 1.4%  | 1181 |
|     | 60代   | 40.7%          | 24.6%            | 9.6%             | 4.5%  | 2.5%            | 17.1%           | 1.0%  | 873  |
|     | 70歳以上 | 40.6%          | 22.2%            | 11.5%            | 2.9%  | 3.5%            | 18.4%           | 0.8%  | 374  |

調査に回答した理由（2つまで選択）×市政に意見を言うか

| 市政に意見<br>を言うか   | 雪対策に<br>日頃から関心 | 自分や家族の<br>生活に関わる | 雪対策の課題<br>を知って興味 | 時間に余裕 | 回答に手間が<br>かからない | 意見を伝える<br>機会がない | その他  |      |
|-----------------|----------------|------------------|------------------|-------|-----------------|-----------------|------|------|
| 1. 全く言ったことがない   | 35.9%          | 26.4%            | 8.9%             | 7.3%  | 3.2%            | 16.3%           | 1.9% | 1966 |
| 2. ほとんど言ったことがない | 37.4%          | 26.1%            | 8.6%             | 5.6%  | 3.3%            | 17.9%           | 1.1% | 1305 |
| 3. どちらとも言えない    | 35.6%          | 24.9%            | 8.7%             | 5.2%  | 3.1%            | 20.8%           | 1.7% | 289  |
| 4. 時々言っている      | 48.1%          | 22.2%            | 7.2%             | 2.0%  | 2.0%            | 17.2%           | 1.2% | 401  |
| 5. 頻繁に言っている     | 42.9%          | 20.0%            | 8.6%             | 2.9%  | 0.0%            | 17.1%           | 8.6% | 35   |

| 無作為 | 年齢    | 雪対策に<br>日頃から関心 | 自分や家族の<br>生活に関わる | 雪対策の課題<br>を知って興味 | 時間に余裕 | 回答に手間が<br>かからない | 意見を伝える<br>機会がない | その他  |     |
|-----|-------|----------------|------------------|------------------|-------|-----------------|-----------------|------|-----|
|     | 29歳以下 | 10.4%          | 27.8%            | 3.5%             | 22.2% | 11.1%           | 18.8%           | 6.3% | 144 |
|     | 30代   | 13.3%          | 30.5%            | 3.0%             | 12.4% | 12.4%           | 24.0%           | 4.3% | 233 |
|     | 40代   | 20.3%          | 26.1%            | 5.8%             | 9.6%  | 13.4%           | 19.2%           | 5.5% | 291 |
|     | 50代   | 21.0%          | 27.3%            | 5.2%             | 6.0%  | 10.2%           | 23.1%           | 7.1% | 381 |
|     | 60代   | 22.3%          | 29.6%            | 9.7%             | 5.5%  | 8.1%            | 21.2%           | 3.7% | 382 |
|     | 70歳以上 | 22.6%          | 31.8%            | 6.6%             | 4.5%  | 7.4%            | 24.4%           | 2.7% | 487 |

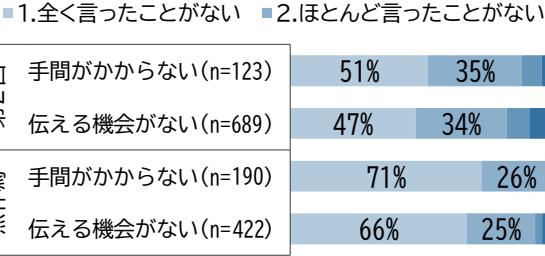
| 市政に意見<br>を言うか   | 雪対策に<br>日頃から関心 | 自分や家族の<br>生活に関わる | 雪対策の課題<br>を知って興味 | 時間に余裕 | 回答に手間が<br>かからない | 意見を伝える<br>機会がない | その他  |      |
|-----------------|----------------|------------------|------------------|-------|-----------------|-----------------|------|------|
| 1. 全く言ったことがない   | 17.5%          | 27.3%            | 6.1%             | 9.5%  | 11.1%           | 22.8%           | 5.8% | 1217 |
| 2. ほとんど言ったことがない | 23.2%          | 32.6%            | 5.4%             | 5.0%  | 9.8%            | 21.4%           | 2.6% | 500  |
| 3. どちらとも言えない    | 20.0%          | 32.9%            | 8.6%             | 12.9% | 7.1%            | 15.7%           | 2.9% | 70   |
| 4. 時々言っている      | 29.4%          | 33.3%            | 8.8%             | 3.9%  | 1.0%            | 21.6%           | 2.0% | 102  |
| 5. 頻繁に言っている     | 27.3%          | 18.2%            | 9.1%             | 0.0%  | 0.0%            | 45.5%           | 0.0% | 11   |

LINEはテーマに高い関心のある層の意見を捉え、無作為調査は幅広く参加機会を提供

- ❖ 第2回調査は、「雪対策に日頃から関心がある」を理由とする割合が、全世代で無作為調査より10～20％近く高い。LINE調査が元々関心の高い層の意見収集に適した手法であることを示唆
- ❖ 無作為調査は、「回答に手間がかからない」「市に伝える機会が普段はないから」を理由とする割合がほぼ全世代で第2回調査よりやや高く、普段は積極的に意見表明しないものの、ハードルが低ければ協力したい層、意見を伝える場を求める層へアプローチできていると考えられる
- ❖ なお、両調査で若年層は「時間に余裕があったから」という理由が他の世代よりも高く、無作為調査では「回答に手間がかからない」という理由は40代がやや高い

市政に意見を言う層と言わない層では参加動機が異なる

- ❖ 第2回調査では、「時々・頻繁に言う」層は、「雪対策への関心」を動機とする割合が他の層より高い。特に、「時々意見を言っている」層の約5割が「雪対策に日ごろから関心がある」と回答
- ❖ 無作為調査は、「意見を伝える機会がない」を挙げた人のうち約91％を「全く・ほとんど言わない」層が占めたことに加え、「手間がかからない」という理由では約97％に上った

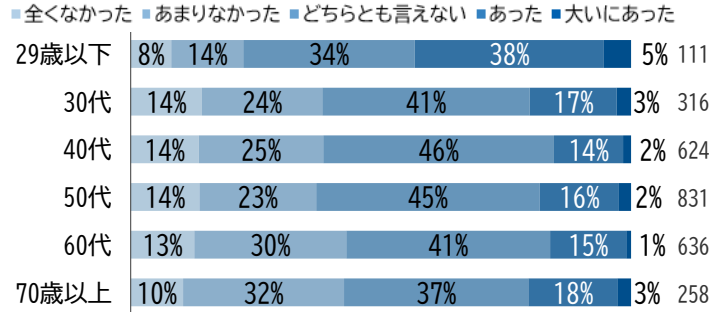


## 考え方の変化は世代横断的に発生。特に29歳以下や70歳以上が変化を自覚

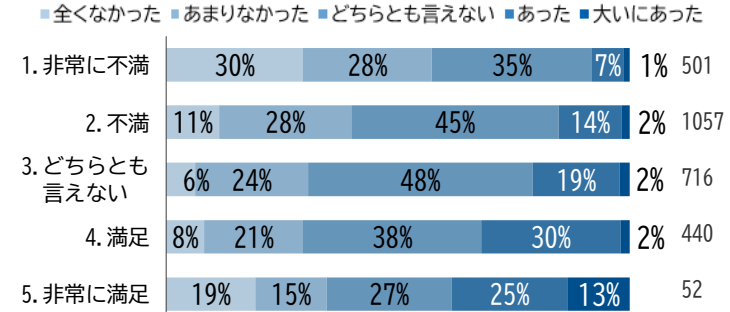
広報さっぽろ5月号の記事を読んだ割合（単一回答）



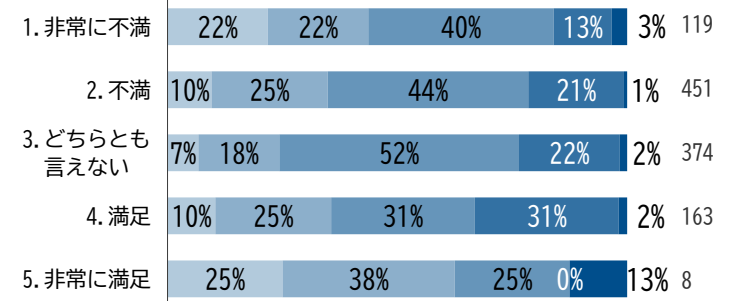
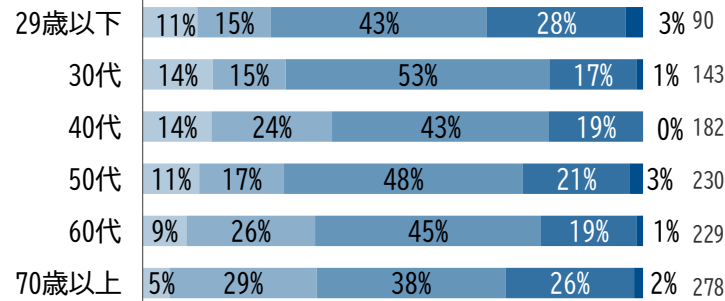
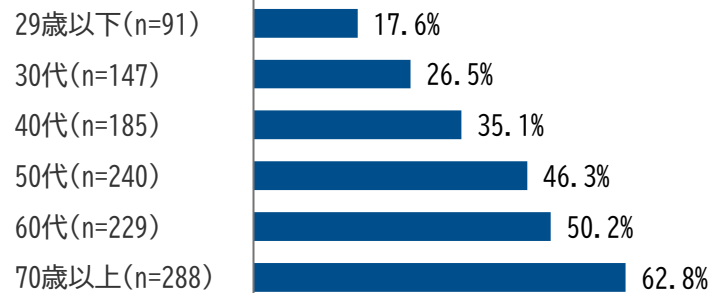
情報提供による雪に対する考え方の変化×年齢



情報提供による雪に対する考え方の変化×除排雪満足度



### 無作為



#### LINEにより記事の閲覧率が高まる可能性

- ※ 記事を読んだと回答した割合は、第2回調査で回答者全体の63.2%、無作為抽出で44.7%
- ※ 高齢になるほど読んだ割合が高くなる傾向があり、29歳以下は特に低い割合
- ※ 第2回調査では、無作為調査と比べて全体の閲覧率が向上しており、特に伝えたい情報をLINEを通じて発信することは、紙媒体よりも幅広い世代へ効果的に情報が届く可能性がある

#### 特に29歳以下や70歳以上の考え方が変化

- ※ 第2回調査では、情報提供後に「考え方が変わった（「大いにあった」と「あった」の合計）と自ら認識した市民が全体の18.4%、無作為調査では全体の23.1%
- ※ 意識変化の自覚は、特に29歳以下と70歳以上で高い割合を示しており、雪対策の課題を知ったことで新たな気づき等を得た可能性がある

#### 満足度が高いほど意識の変化を自覚しやすい

- ※ 満足度が高い層は、意識の変容を実感しやすく、低い層ほど変化を自覚する割合が低くなる傾向が見られた※「非常に満足」はサンプル数が僅少
- ※ 不満のある層には、生活実感に即した改善策の検討や進捗を丁寧に伝えていくことが不可欠
- ※ 変化の余地が多い層に向けても発信方法を工夫し、参加の裾野を広げていく必要がある

### 各層への戦略的なアプローチを着実に進めていく

#### 調査から得られた主な知見

##### 情報提供の効果

情報提供が「雪の不便さの許容」や「身体的負担」の意識に影響を与える可能性を示唆

##### 多様な層の意識変容

情報が届けば、世代横断的にさまざまな意識の変化が促される

##### 調査手法の特性

LINEは意見表明の度合いや関心が高い層、無作為調査はサイレントマジョリティ層の意識を捉えやすい

#### 年齢層別の傾向と効果的なアプローチ手法

##### 29歳以下 — きっかけ型（潜在参加層）

###### 傾向

- ※ 情報提供による意識変化を自覚する傾向
- ※ 普段は情報に触れないが、触れる機会や参加する機会があると意見を表明しやすい

###### アプローチ手法

- ※ SNS、ショート動画等のデジタルコンテンツで情報に触れる機会を増やし、自分ごと化を促す
- ※ 学校等との連携、ワークショップで参加意識を醸成

##### 30～50代 — 負担軽減型（潜在参加層）

###### 傾向

- ※ 時間的な余裕が少なく、参加への時間的・心理的なハードルが高い
- ※ 自分や家族に関わるテーマへの関心が高い

###### アプローチ手法

- ※ オンラインアンケート等の時間や場所を選ばないデジタルツールを活用
- ※ 実生活に直結するエピソードック情報を交えて発信

##### 60歳以上 — 積極参加層～潜在参加層

###### 傾向

- ※ 広報さっぽろが重要な情報伝達手段
- ※ 情報提供による意識変化を自覚する傾向
- ※ 「身体的負担」への関心が強い

###### アプローチ手法

- ※ 広報さっぽろ等の紙媒体を効果的に活用
- ※ 郵送調査の継続やワークショップなど、オフラインで参加の場を提供



#### 今後の方向性

各種調査により、情報提供が市民の意識に与える影響や、サイレントマジョリティ層が市政に参加する要因を一定程度確認することができた

得られた知見を踏まえ、年齢層別の特性に応じたアプローチを**戦略的に実行**し、情報提供の効果を高めながら市民の**市政への参加を促進**していく